

平成23年度
実施事業

事務事業名 文化財保護経費

区分	No	名称
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む
施策	2	文化の保存・継承
小分類	1	歴史の伝承と活用
主要な施策	2	埋蔵文化財の保管、展示施設の整備と学習会の開催
事務事業番号	001	事業開始年度 昭和 45 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	教育部	グループ名	社会教育 G
-----	-----	-------	--------

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	郷土を形作る文化財の保護と活用を図ることにより、ふるさと登別に対する理解を深め、大切にすることを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成23年度の実績を具体的に記入してください)
	市民に対する指定文化財等の周知、文化財の保護活動、活用等を実施する。 埋蔵文化財事前協議（進達・試掘調査・工事立会調査・発掘調査）：4件 縄文出前講座等の普及事業（市内の小学校及び各種団体等）：9件 市民を対象としたアイヌ文化講座：1件 遺跡の変更・登載手続き 刀剣類・史跡名勝天然記念物等の事務手続きなど
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	登別市を形成している多様な文化を理解するため、これまで整理・活用の進んでいない明治期に登別へ移住した仙台藩片倉家主従に関する文書などの分野の保護・活用を図っていく。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	文化財保護法 登別市文化財保護条例・登別市文化財保護条例施行規則

事業費（財源内訳）の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H22年度 決算	H23年度 決算	H24年度 当初予算	H25年度 見込	H26年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円	224	180	345	345	345
事業費 合計			224	180	345	345	345

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	22年度 実績	23年度 実績	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	登別市指定文化財数（年度ベース）	件	目標値	7	7	7	7	7
			実績値	7	7			
				目標値				
				実績値				

現況		《Check》
現状の状態、問題点、課題等《事業前》	具体的な対策、解決の方向性《事業後》	
<p>アイヌ文化に対する理解の不足</p> <p>片倉家関係や村治類典などの古文書などの整理・活用が進んでいない</p>	<p>市民向けのアイヌ文化講座を継続して行うことにより、歴史・文化・社会的な意味においてアイヌ文化を理解する市民が増加する。</p> <p>古文書教室を開催し、古文書を解読できる市民を育成することにより解読が進み、姉妹都市白石市との関係や登別市のあゆみについてより具体的に把握することができる。</p>	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可）			《Check》
1. 事務事業の妥当性について			
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	→	市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見 法律（文化財保護法）で義務付けられており、文化財は国民共有の財産であることから、今後も市が事業主体として保護と活用を図っていくことが妥当である。
	→	民間（事業者、市民団体等）でも実施可能である	
	→	国、道、他団体等との連携や広域化が可能である	
	→	国、道、民間等の事業と重複・類似している	
2. 事務事業の必要性について			
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	→	市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見 歴史や文化はまちを形成する要素の一つであり、これらを保護・活用していくことは、将来的なまちの価値を高めていくためにも必要性の高い事業といえる。
	→	市民アンケートの結果から必要性が高い	
	→	社会情勢、地域事情等から必要性が高い	
	→	市民の大部分が関連することから必要性が高い	
3. 事務事業の効率性について			
事業内容とコスト（事業費）のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	→	低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見 講座は、市の学芸員や派遣事業を活用して実施することにより低予算化を図っている。学芸員による長期的な文化財の保護・活用が図られることにより効率性が高まる。
	→	市で実施するほうが民間委託より効率性が高い	
	→	多額の経費や労力を要するがやむを得ない	
	→	将来的に効率性を向上できる	
4. 事務事業の成果について			
目的を達成するための成果はあがっていますか？	→	成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見 講座参加者などから、登別市の文化財に対する価値や関心についての声を聞いている。
	→	市民、団体等の声から成果を感じられる	
	→	目に見える形で成果があがっている	
	→	成果の把握は困難である	

担当グループによる評価			《Check》
維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	心豊かな生活を送るために、ふるさと登別に関連する文化財の保護・活用は、地方公共団体の責務であるため、今後も維持していく必要がある。	

行政評価会議による評価			《Check》
維持	備考		